



みんなで作る 生き活きとした 立川プロジェクト報告書



立川商工会議所では、平成21年10月に環境 ECO 推進協議会（現：ECO イノベーション推進協議会）を設置し、「環境行動計画」を策定、地球温暖化対策事業を推進してきました。平成26年度にその計画の見直しをはかり、平成27年度より新たにネクストステップとして「みんなで作る生き活きとした立川プロジェクト」を策定し活動を行っております。

環境に配慮し、街のにぎわいと活性化、事業所の活動や発展を通じて、より魅力ある東京西部主要都市「立川」をめざして活動を続けてまいります。

事業方針

1 中長期的活動（5～10年）

1. 立川モデルの検討

- ・立川の独自性を出したモデルの検討をし、多摩地域全体に広げていくためのプロジェクトの検討

2. “見える化”によるグリーンマイルージ（GM）の検討

- ・夏季、冬季の電力・ガスが前年より削減されていれば GM を付与
- ・“見える化”システムの実験参加により GM を付与
- ・エコドライブの実践（燃費の登録）により GM を付与

3. エコドライブ推進の検討

- ・ノーカーデー、カーシェアリング、パークアンドライド、レンタサイクルの実証実験

2 短期的活動（1～2年）

1. 中小企業における省エネ提案

- ・立川独自の“見える化”システムを中小企業に導入し、省エネを推進する

2. 省エネ体験プロジェクト

- ・環境に意識の高い人材（学生・若者）を育成するため、省エネ・創エネの実験プログラムを作成・実践

3. 外部プロジェクトの連携

- ・たとえば“まち・住まい・交通 創蓄省エネルギー化推進プロジェクト”（国土交通省）

4. 情報収集・提供

- ・勉強会を実施（水素ガス・電力、ガスの自由化、新エネルギー）
- ・補助金の獲得等情報の提供

5. アンケート調査の実施

- ・会員の望むテーマの模索・会員事業所の環境への取り組み（1店1エコ運動の推進）

平成30年度の主な活動

ビデオ制作プロジェクト

平成21年度より始まった当協議会では、発足以来多くの委員が携わり、意見交換やテーマに沿った事業を行ってきました。その活動の記録と今後の展開をまとめ、周知啓発を目的にPR動画として活用していきます。

プレゼンテーションプロジェクト

平成28年度から省エネプロジェクトの一環として中央大学経済学部と連携し、環境をテーマにした調査研究を進めております。立川市の環境問題について、より多くのゼミにご参画いただき、若い目線での斬新なアイデアを当協議会の活動に結び付けられるよう今後もタイアップしていきます。

第9回 環境シンポジウム（H31.2.27）

～立川発!!みんなで作ろう環境ビジネス2019～

- ・協議会と学生の連携事業 研究発表
「立川市の地域環境」中央大学経済学部 谷口ゼミナール
「紫波町の地域活性化」中央大学経済学部 丸山ゼミナール
- ・立川市補助金制度及び事例紹介
- ・基調講演 I 「国民性調査に見る日本人の環境に関する意識」
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所 データ科学研究系 准教授 前田忠彦氏
- ・基調講演 II 「南極は地球と宇宙の覗き窓」
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立極地研究所 地圏研究グループ 教授 本吉洋一氏

これまでの主な活動報告

- 平成21年度 ●環境 ECO 推進協議会設置（H21.9.18）座長 藤本 淳 ●「環境行動計画」の策定（H22.2）【方針】①中小事業所における取組の促進 ②事業者の連携による取組の推進 ③消費者との協働による新たなビジネスチャンスの誘発 ●第1回 立川の環境を考えるシンポジウム・基調講演「地球異変はどこまで来たか？」朝日新聞社 写真センター カメラマン 小林 裕幸氏・パネルディスカッション「低炭素社会とわたしたちの暮らし」
- 平成22年度 ●環境シンボルマークの作成（公募197点より選出）●省エネウェブサイト開設 ●省エネ診断セミナーの開催 ●第2回 環境シンポジウム～いかに省エネして利益を出すか～ 環境問題への取り組みについて 事例紹介／モデル事業紹介・基調講演「セブン-イレブン・ジャパンにおける省エネへの取り組みについて」（株）セブン-イレブン・ジャパン 取締役 常務執行役員 三谷 康氏
- 平成23年度 ●会員事業所アンケート調査 ●第3回 環境シンポジウム・基調講演「日本「再創造」～プラチナ社会の実現に向けて～」(株)三菱総合研究所 理事長／東京大学総長 顧問 小宮山 宏氏・パネルディスカッション
- 平成24年度 ●エコカフェの実施 ●自動販売機の省エネ化取り組み ●事例発表会・環境 ECO 推進協議会の取り組みについて／事例紹介・商店街のLED化について
- 平成25年度 ●第4回 環境シンポジウム～立川商工会議所 創立60周年記念 特別講演～・基調講演「会社におけるバカの壁」養老 孟司氏 ●省エネ効果のヒアリング
- 平成26年度 ●環境行動計画の見直し ●「みんなで作る生き活きとした立川プロジェクト」方針策定 ●第5回 環境シンポジウム～立川発!!みんなで作ろう環境ビジネス～・基調講演「未来から環境ビジネスの今を考える」独立行政法人製品評価技術基盤機構理事長／東京大学名誉教授 安井 至氏・パネルディスカッション「省エネとビジネスについて」
- 平成27年度 ●ECOイノベーション推進協議会に改名 ●「みんなで作る生き活きとした立川プロジェクト」の具体的な内容策定 ●電力の自由化セミナーの開催 ●第6回 環境シンポジウム～立川発!!みんなで作ろう環境ビジネス2016～・基調講演「異常気象とその影響」気象予報士 村山 貢司氏・基調講演「エネルギー政策はどう動くか～温暖化問題を踏まえて～」21世紀政策研究所 研究副主幹 竹内 純子氏・立川市補助金制度及び事例紹介 ●中央大学との連携事業の開始
- 平成28年度 ●中央大学との連携事業キックオフイベント実施 ●第7回 環境シンポジウム～立川発!!みんなで作ろう環境ビジネス2017～・協議会と学生の連携事業 研究発表「環境的持続可能性からみた立川市～未来へ向けて考える～」中央大学経済学部 数田ゼミナール＋数田 雅弘 教授・立川市補助金制度及び事例紹介
- 平成29年度 ●第8回 環境シンポジウム～立川発!!みんなで作ろう環境ビジネス2018～・基調講演「南極・北極から見る地球と人類の過去・現在・将来」大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所 所長 中村 卓司氏・協議会と学生の連携事業 研究発表「APJ（APRE）が立川を変える?!」中央大学経済学部 谷口ゼミナール＋谷口 洋志 教授・立川市補助金制度及び事例紹介

改修補助金ご案内

1. 無料 省エネルギー診断

効果的な節電対策で光熱費を削減したいと考えている、市内に事業所を持つ中小企業に対し、無料で省エネルギー診断を行いました。この制度は、東京都地球温暖化防止活動推進センター（クール・ネット東京）が行っており、エネルギー管理士等の資格を持った技術専門員が、現地診断等を行って改善提案をするものです。

2. 平成30年度 中小企業二酸化炭素排出量削減事業施設改修費補助金

省エネルギー診断を受診した市内に事業所を持つ中小企業が、改善提案に基づいて行う省エネ改修に対して補助を行っています。省エネ改修を行う場合には、補助金を活用して自己負担を減らしましょう。（※予算が無くなり次第終了します。）

【対象事業者】 市内の事業所（中小企業）

【条件】 ・平成31年2月末までに改修工事が完了する ・エネルギー使用量等を把握している 等

【対象設備】 ・高効率照明器具（LED照明器具等） ・業務用エアコン等の取り替え 等

【補助金額】 補助対象経費の1/3以内（上限50万円）

※これまでの改修補助金利用件数及び補助金利用額

平成22年度／2件 4,000,000円 平成23年度／21件 18,687,000円 平成24年度／8件 12,309,000円 平成25年度／10件 15,674,000円
平成26年度／13件 3,204,000円 平成27年度／15件 8,758,000円 平成28年度／10件 5,301,000円 平成29年度／12件 3,550,000円
平成30年度／2件 623,000円 (H31.1.31現在)

支援に関する問合せ先

立川市 環境下水道部 環境対策課 温暖化対策係

TEL:042-523-2111(内2243) [直通]042-528-4341 FAX:042-524-2603
メール: kankyoutaisaku@city.tachikawa.lg.jp

※平成31年度の支援内容については、
下記へお問い合わせください。

設備の更新を行った事業主の皆さんに伺ってみました!

事例報告

[Q1] 店舗・事業所のPRをお願いします。 [Q2] どのような設備を更新されましたか?
[Q3] この制度を何で知りましたか? [Q4] エネルギー使用量(電気・ガス等)、CO2の削減量は?
[Q5] この制度を利用して変わったことは何ですか?

株式会社 菊屋商店

立川市曙町2-9-2
電話 042-527-5201



CO₂削減量

2t

- [A1] 昭和2年に創業し、陶磁器業、小売・卸売業及び不動産貸付業を営んでいます。現在の多摩信用金庫本店向かい側に位置する菊屋ビルディング1階に店舗を構え、食器や陶器、多様な品揃えでお客様をお待ちしております。現在、八王子に卸売業のみですが、1店舗出店しております。
- [A2] 店舗内の商品棚照明をLED化
- [A3] 商工会議所の担当者から案内を受けました。
- [A4] CO₂ 2t削減
電気使用量は約10%の削減につながりました。
- [A5] 改修は、店舗全体ではなく、全体の約30%でしたので、削減の数字自体は劇的に変わった感じはありませんが、日々の営業の中では少しでも削減に繋がっていることに感謝しています。それよりも、LED化を取り組んだことがきっかけで、従業員の意識の変化があったことが最大の改革だと感じています。気付けるようで気付かず、意識を持ってそうで持てないCO₂削減ですが、このような取り組みひとつで意識が変わることを経験しました。今後、店内全体をLED化していければと思っております。

錦中央工業 株式会社

立川市富士見町7-27-17
電話 042-525-2672



CO₂削減量

4t

- [A1] 当社は、金属の素材を使って様々な製品を製造しています。また、溶接の技術と機械加工の技術を駆使しながら、お客様に満足頂ける製品をお届けできるよう日々技術向上に努めています。当社の強みは、製缶加工と機械加工の2つの工場の連携です。素材の購入から切断・曲げ加工・溶接・機械加工・熱処理・メッキ・塗装などトータルで受注しています。
- [A2] 工場の照明を水銀灯からLED化
- [A3] 以前この制度を利用した関連企業より紹介を受けました。
- [A4] CO₂ 4t削減
電気使用量は約10%の削減につながりました。
- [A5] 以前は水銀灯だったのでスイッチの入り切りが不便でしたが、LEDにしたら、こまめにスイッチ操作ができるようになりました。工場の照明のため、明るさが増し雰囲気も良くなり、作業の効率アップにも繋がりました。